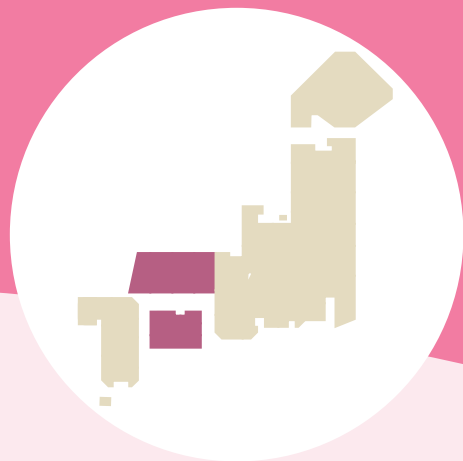


# 中国・四国



p.60 鳥取県

佐伯友茂さん  
剣道



p.61 島根県

佐藤千年さん  
ターゲット・  
バードゴルフ



p.62 島根県

谷口真澄さん  
水泳



p.63 岡山県

向井 彰さん  
バウンスポール



p.64 岡山県

村木聡一さん  
eスポーツ



p.65 山口県

嶋田美智枝さん  
水泳



p.66 山口県

末田哲明さん  
サッカー



p.67 徳島県

中谷千賀子さん  
グラウンド・ゴルフ



p.68 香川県

大西小波さん  
バウンドテニス



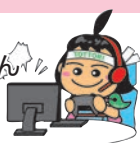
p.69 高知県

竹本紅美子さん  
ボウリング



p.70 高知県

益永美和さん  
eスポーツ



p.71 広島市

佐々木竜一郎さん  
ソフトバレーボール





## 剣道 鳥取県A (監督兼選手)

さ えき ともしげ

佐伯 友茂 さん

72 歳

● 参加歴：2 回目

### 生涯剣道を目指す仲間たちと交剣知愛

前回のえひめ大会に初めて出場し、予選リーグ1勝1敗で敗退、悔しい思いをしました。地元開催の今年は3チーム出場で、Aチームの監督兼選手を任せていただきました。大会が近づくにつれ試合を意識した練習内容になり、鳥根県や岡山県に遠征して胸を借り、大会に向けての機運が高まりました。大会直前には、私が部活指導している中学生から激励の寄せ書きをもらい感激しました。

開始式では、同じ「生涯剣道」の志を持つ仲間たちと競いながらも、「交剣知愛」で友情を深め合うという思いを選手宣誓で述べました。

競技1日目は、予選リーグで鳥取県3チームがそれぞれ2勝を挙げ、予選リーグ突破を果たしました。決勝トーナメントに駒を進めたことで、チーム全体の士気は大いに上がりました。特にCチームは、選手5名のうち前4名が女性で、大将のみ男性という女性中心のチーム構成で、会場内から注目を浴びながらの大活躍でした。

2日目の決勝トーナメント、Cチームは熊本

県と戦い惜しくも代表戦で敗れましたが、ベスト16で優秀賞。最終的にBチームは3位、Aチームが優勝という栄誉に輝きました。目標に対する達成感とともに感動したのは、決勝戦の試合後のあいさつのあとに、全力を尽くして戦った双方が自然に歩み寄り、互いの健闘を称え合えたことでした。大会期間中は多くのチームの方々と交流することができ、私にとってまさに「交剣知愛」の大会でした。

また、大会後に思いもよらぬことがありました。それは、私が剣道8段審査に合格したことです。大会1カ月後の審査では、ねんりんピックに向けた練習や練習試合、本大会での経験が生かされたのではないかと考えています。ねんりんピックに参加したことは、私の人生にとって大きな糧となり、かけがえのない思い出として心に残りました。

最後に大会関係者の皆様に感謝し、私もこれから健康に留意し、「生涯剣道」を目指して精進していきたいと思えます。



「交剣知愛」の思いを述べた開始式の選手宣誓。



全力を尽くした大将戦。試合後は互いの健闘を称え合った。(右)



## ターゲット・バードゴルフ

島根県（選手代表）

さとうちとし

佐藤千年さん

77歳

●参加歴：1回目

## 選手同士ともに練習を重ねた成果で上位入賞

ねんりんピックとっとり大会のターゲット・バードゴルフ交流大会に島根県チームとしてグラウンドシニア（79歳以上）2名、シニア（78歳以下）2名の4名で参加しました。ねんりんピックという大きな大会に参加するのは4名とも初めてで不安がありましたが、全国から参加された皆様に温かく受け入れられ、プレイできたことに深く感謝したいと思います。

2023年に島根県ターゲット・バードゴルフ協会の加藤会長から「来年ねんりんピックとっとり大会が開催されるが、参加してみようか」と声をかけていただき、参加してみようと思ひ、大会会場となる日吉津村の月例会に参加しました。海岸沿いの風の強いコースでした。これが大会前の印象です。その後1年間、風対策として、参加した4名は、出雲平田・大田・雲南・松江のコースで練習を重ね、週3日程度練習する選手もいれば、毎週各地区協会の大会に参加するなどして腕を磨きました。

ターゲット・バードゴルフ交流大会の試合は2日間のトータルスコアで競い合います。1日

目は風が強くて大変苦労しましたが、2日目は晴天に恵まれ、風もあまりなく気持ち良いプレイができました。

ターゲット・バードゴルフは、一般的になじみが薄いかもかもしれませんが、羽根つきボールを使うので滞空時間が長く、当たってもけがをせず、子どもから高齢者まで楽しめるスポーツです。また、バンカーや障害物のあるコースが設定でき、変化が楽しめます。

島根県チームは初参加でしたが、日頃の練習成果をいかんなく発揮することができ、高成績を収めることができました。シニアの部で優勝したのは幼馴染の法正寛さん、準優勝は私でした。また、グラウンドシニアの部でも島根県の選手が4位と11位を獲得しました。

次回の岐阜大会にターゲット・バードゴルフの会員および愛好者の方が参加されたら、上位入賞を目指して頑張っしてほしいと思います。

大会を支えてくださいました日吉津村長をはじめ、スタッフの皆様方、ターゲット・バードゴルフ鳥取協会の皆様、大変お世話になりました。



シニアの部で優勝した法正さんと一緒に。(左)



初参加ながら健闘した島根県チーム。(左端)



## 水泳 平泳ぎ 50m 島根県（選手）

たにぐち ますみ  
谷口 真澄さん 75歳 ●参加歴：1回目

## 水泳仲間に感謝し、泳げることの幸せを実感

「ねえ～、今年のねんりんピック、鳥取県で開催されるんだって。隣の県だよ、近くだよ。出てみない？ 一生の思い出に」と誘われて参加の申し込みをしてもらい、出場できるようになりました。誘ってくれた2人と一緒に3人での初参加です（3人とも「スイミングスクール安来」で楽しく泳いでいます）。

そして大会初日、総合開会式はあいにくの雨により屋内で開催され、全員が参加することができず、私たちはバスの中で待機しました。会場の鳥取県立布勢総合運動公園にせっかく来たのに、まったく見ることができず、大変残念でした。

いよいよ試合本番の日、米子市の鳥取県営東山水泳場で、私たちが参加する水泳競技がありました。練習のときは泳ぎやすいプールだなあと感じましたが、さすがに出番が近づいてくる

と緊張しました！ どうしよう、いつもの大会と同じように逃げ出したくなりました。だから、泳ぎ終わって、タイムが良かったことが分かった、すごく満足しました。1位になれたのもすごくうれしかったです。これは運が良かったからだと思います。良い結果が出せたのは、大会に誘ってくれた2人のおかげです。感謝しています。

無事にねんりんピックの大会が終わり、今思い出しています。泳ぎ始めた頃のことを……。

25～26年前、何か体を動かすことを始めなければと近くのプールに通い始めたのは、体調管理が目的でした。最初の頃はうまくいかなくて挫折しかけたこともありましたが、近年はけがや病気で何カ月も泳げないことがありました。今はただ、泳げるのが幸せだと思っています。これからも健康に気をつけて、ずっと泳ぎ続けたいと思っています。

プールに通い始めてできた友だちとの触れあいが、今の一番の楽しみです。今、私の周りにはいるプール仲間に伝えたいです。どうもありがとう！ そして、これからもよろしくね！

最後に、大会に出場するためにお世話になったたくさんの方々、本当にありがとうございました！



ねんりんピックの結果を報告するため、島根県の丸山知事を訪問。（左端）



## バウンスボール KCSL (選手代表)

むか い あきら

向井 彰さん 76歳 ● 参加歴：1回目

## 初参加で得られた収穫を今後の活動に生かしたい

今回初めてねんりんピックに参加し、とても良い経験をさせていただきました。

「バウンスボール交流大会に参加しませんか」と声をかけていただき、倉敷市スポーツ推進委員のスポーツ好き5名が二つ返事で参加を決め、早速練習を開始。バウンスボールは鳥取で誕生した競技で、今回のとっとり大会で初めて選ばれた種目と聞きました。メンバーの中には初心者もあり、短い期間ではありましたが、予選突破を目標に練習を重ねて大会に臨み、あっという間に大会の日が来ました。

岡山駅での結団壮行式後に、バスで鳥取に移動しました。結団壮行式では、岡山県選手団の旗手として代表で謝辞を述べさせていただきました。

「弁当忘れても傘忘れるな」と聞いておりましたが、これほど雨が降るとは。総合開会式は規模を縮小して開催することとなり、旗手の私の出番がなくなり、残念でした。あきた大会に参加したメンバーは、竿燈まつりなどを見てとても楽しかったようで、今回は何が見られるのか楽しみにしていただけに、がっかりしておりました。

ふれあい広場では土産物の物色などを楽しみ、雨の幕下で他県の選手と情報交換。弁当は駐車場のバス内でいただきましたがおしかったです。その後、倉吉に移動し、バウンスボールの開始式に参加しました。

3日目は試合でした。発祥の地での大会ですので、日頃の練習の成果を発揮しても勝ち抜くのは難しいだろうと思っていました。どこのチームもとても強く、目標未達で2連敗、交歓

試合で1勝を挙げるのが精一杯でした。

予選から3連敗して最後の試合で、また負けたいながら整列に向かったとき、相手側からルール違反を自己申告され同点となり、私の得点で初勝利。相手側のスポーツマンシップに拍手を送りたいです。

岡山代表の方々や他県の選手、この大会に関わる多くの人たちと交流し、さまざまな楽しい体験ができましたことをとてもうれしく思います。また、地元の方々と触れあい、負けない試合をするための方法を学び、持ち帰ることができました。これからの活動に生かし、地元倉敷でもバウンスボールを広げていけたらいいなと思います。予選敗退でしたが、3泊4日、皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。また参加したいです。

大会の準備は大変だったと推察します。心づかいも行き届いており大いに楽しませていただきました。鳥取県や岡山県のスタッフの皆様、ありがとうございました。



地元でもバウンスボールを普及したいと意気込む岡山県チーム。(中央)



## eスポーツ グランパスナイパーズ（選手代表）

むら き そう いち

村木 聡一さん 67歳 ●参加歴：1回目

## 心の灯が熱く燃えた“無謀な”初挑戦

そのときは突然やってまいりました。

「村木さん、鳥取で行われるねんりんピックに出場されませんか？」

岡山県eスポーツ連合の和田事務局長からの一言でした。ねんりんピックでeスポーツの採用は今回が初、どうやらその記念すべき大会に選手を派遣したいとのこと。実はeスポーツは各競技のコミュニティはあるものの、シニアの選手層の登録がないのが実情でした。好奇心旺盛の私は無謀にもお引き受けすることになり、早速同級生2人に声をかけると、経験もないくせにこちらも無謀にも快諾。ここから3人の練習が始まったのです。全国大会へのプレッシャーは日に日に増し、十分な練習成果もないまま、あっという間にねんりんピック当日を迎えました。

代表者会議に向かうバスで、愛媛代表の方とお話をする機会に恵まれました。しかし、ここで問題が発生。我々が練習していたレギュレーションは、大会でのそれとは違っていたことに気づいたのです。しかし、大会はもう明日。ぞっとするなか、ホテルに帰るなり3人で会議。当日の出場が午後からということも手伝い、午前中に各競技ブースに散って、さらなる情報収集に奔走。そして、我々なりの拙い戦略を立てたのです。常識的には初心者の3人が全国大会で1勝することはほぼ不可能です。なんとか予選リーグで1勝することが目標となりました。

初戦の相手は岐阜県。ここから3人の初めてのeスポーツ競技、無謀な初めての全国大会が始まったのです。結果は初戦勝利、

なんと……！戦略として決めたことが活かされました。次戦の相手は川崎市。なんと、こちらでも勝利し、いよいよ最終戦です。勝利すれば決勝トーナメントへ進出。3人は舞い上がりました。気を120%込めて戦った最終戦は、地元境港市のチームとの対戦。さすがに地元の声援が我々の背中へのしかかり、結果は惜敗！残念。あのときこうしておけば……、振り返れば僅差での敗戦だけに悔やむことだらけでした。

3人は帰りの電車で、またまた無謀にも誓い合いました。「無茶苦茶楽しかった、次は優勝を目指そう」

来年の岐阜大会はeスポーツ競技の採用がなく残念ですが、初めてづくめの参加はとても楽しく、我々の心の灯を熱く燃え上がらせたねんりんピックとなりました。

最後にさまざまなご手配を含め対応いただいた岡山県社会福祉協議会のスタッフの皆様、さらには岡山県eスポーツ連合様に敬意を表し、厚く御礼申し上げます。



次は優勝を目指そうと誓い合ったグランパスナイパーズ。(前列右端)



## 水泳 背泳ぎ 50m、25m 山口県（選手）

しまだ みちえ

嶋田 美智枝 さん

65 歳

● 参加歴：1 回目

## 初めてのねんりんピックを満喫

ねんりんピックとっとり大会水泳競技に同チームの女性4人で参加することを決めたのは3月の県予選終了後。コーチからねんりんピックの参加希望があればエントリーしますよと。ほぼ毎日2時間程度プールで顔を合わせ、気心知れている仲間に参加できれば、これは修学旅行以来の楽しい旅行になると確信し、初体験に意気投合した。

山口から鳥取まで6時間のバス移動となるがおしゃべりに花を咲かせ、サービスエリアでのおいしいお弁当。少し眠くなり目が覚めた車窓には雄大な大山が広がっていた。夕方ようやくホテルに到着。県事務局の計らいでホテルにて山口県選手団の交流会が盛大に行われた。水泳チームは事前合同練習で顔を合わせた男性4名とすでに打ち解けており、交流会でさらに親交を深めた。

翌日はあいにくの天気で開催式は縮小されバ

ス移動の日となった。選手も残念だったが、ここまで準備されてきた開催地側の方々の無念さは計り知れないと察した。

水泳競技の会場は米子市。ようやく到着し、代表者会議に参加。主催者や関係者の方々との入念な打ち合わせがあった。県水連の「おもてなし」に感動したのは屋内25mプールに、競技記録に欠かせないタッチパネルが両面にあったこと。連動している大きな電光掲示板をプールの壁上にクレーンでつり上げ設置したとのこと。水泳競技における記録は1/100秒まで重要。本当にありがたかった。選手の動線や室温・水温等の環境整備の配慮も完璧。ソフト面では地元の高校生が選手のレース前後の誘導を笑顔で対応してくれた。応援観戦に来られた近隣の幼児の大きな声援で大会が盛り上がった場面も。大会終了後もボランティアの方々丁寧に送っていただき、各々の観光または帰路に

着くことができた。選手冥利につきる素晴らしい大会であった。お世話をしていただいた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。



米子東山体育館に設置された記念パネル前で山口県水泳チームの皆さんと。(前列右から4番目)



米子駅から境港へ鬼太郎列車で観光へ。(左端)



## サッカー 山口60雀サッカークラブ（選手）

すえだ てつあき

末田 哲明さん 88歳 ●参加歴：10回目

## 我が人生の友——サッカー回顧録

私がねんりんピックに関わり始めたきっかけは、1998年に行われたねんりんピックのサッカー交流大会に向けて、60歳以上のチームを作るように言われたことです。地元チームの山口ダックスを中心に、県内の40歳以上のチームにお願いして60歳以上の選手を選抜し、97年に山口60雀サッカークラブを作りました。活動内容は月2回の練習を行い、当時は60歳以上のチームがなかったため、スポーツ少年団、中学生、女子チームを相手に試合を行いました。学生時代からサッカーをやってきた仲間なので、ユニフォームを着ると、非常に若返った気分になり、体が動かなくとも口のほうはよく動き、大声を出して楽しく練習をしています。また、プレイに熱中することによりストレスの解消にもなり、練習後は清々しい気持ちで気分も変わり、明日への活力になっています。

ねんりんピックの実績は、大阪で優勝、愛知・広島・徳島で準優勝、群馬・福岡・静岡・茨城・高知・山口で3位を獲得。現在は60歳以上のチームが6チームあり、交代でねんりんピックに参加しています。若い頃からこの歳までサッカーに携わることができたのは、妻の理解と家

族の協力のおかげで、元気でサッカーが続けられていることに感謝です。“サッカーは我が人生の友である”。

大会当日は朝から雨で開会式が縮小され、会場が変更になり残念でした。雨が激しく降るなか、世話をされる職員やボランティアの高校生も大変だったと思います。私たちのチームのうち3人は、体育館の会議室で行われたサッカー交流大会特別表彰式に出席し、私はこの度、最高齢者賞をいただきました。同じチームの堀池氏、原氏も高齢者の表彰を受けられ、人生最良の一日でした。チームの皆さんに感謝しています。

会議が終わり、全員で宿泊先の岡山県津山市にある津山鶴山ホテルに向かい、次の日から2日間、会場までバスで中国山脈を往復して良い思い出になりました。翌日から天気が回復して、グラウンドでは高校生の方が準備され、ボランティアの皆さんが作られたきなこ餅やお汁をおいしくいただきました。2日目の会場ではえび汁をいただき、試合の結果は1引分け2敗でしたが、対戦相手やボランティアの皆さんと交流ができて大変楽しかったです。

最後に大会事務局の皆様大変お世話になり誠にありがとうございました。



高齢者賞を受賞した堀池知幸さん（右）と原龍雄さん（左）と一緒に。（中央）



試合会場でチームのメンバーと。（前列右から5番目）





## グラウンド・ゴルフ 徳島県（選手）

なか や ち か こ

中谷 千賀子 さん 79歳

● 参加歴：2回目

### 心に残るチームメイトの活躍と他県選手との交流

グラウンド・ゴルフ徳島県チームの選手は、男子3名・女子3名の参加でした。

ねんりんピックとっとり大会の徳島県選手団結団式が徳島グランヴィリオホテルで行われ、徳島県知事より県旗が折野好信団長に授与され、激励の言葉をいただきました。選手を代表して松浦昭雄選手が謝辞を述べ、いざ一同は鳥取に向けてバスで出発しました。

その日の夜は徳島県選手団交流会が開催され、選手間の交流を図るとともに上位を目指す各々の決意を発表するなど、大会に向けて盛り上がりました。

総合開会式当日はあいにくの雨で、式典には参加できずに残念でしたが、20日、21日の2日間は、グラウンド・ゴルフ発祥の地である湯梨浜町の潮風の丘とまりで競技ができるうえ、さらにそれが全国大会であることが一番の喜びで、全国の選手の皆さんとの交流大会を楽しみました。

競技会場は岬コース、アウトコース、インコースがあり、どのコースも難所ありでなかなか難しいものでしたが、ここで報告します。なんと私たち徳島県チームの八田加津子さんが、1ゲーム終えるごとに「ワンできたよ!」「またワンだよ!」「またワンだよ!」と3回もホールインワンが出る絶好調ぶり。その結果、女性の部で準優勝という素晴らしい成績を獲得しました。

また、同じ組で一緒に回られた方が91歳で最高齢者表彰を受けられましたが、まさにプレイの姿、動きなど「生

涯現役」そのものです。見習いたいものです。

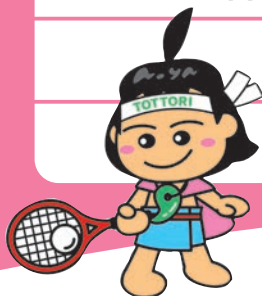
他県選手との土産話では「すだち」を準備して徳島県の自慢話を聞いていただき、2日目には、「すだち酎にしたよ!おいしかったよ!」と言っていました。大鳴門橋、渦潮、阿波踊り、祖谷のかずら橋 etc……と徳島談議で盛り上がりました。とても楽しいとっとり大会になりました。

帰りは「グラウンド・ゴルフ発祥の地モニュメント」のあるJR泊駅から帰りましたが、道中、期間中の楽しかったできごとを思い出しながら徳島駅に着いたのでした。本当に一生の思い出になったねんりんピックとっとり大会でした。

お世話いただいたとくしま“あい”ランド推進協議会の皆様をはじめ大会関係者の皆様、ありがとうございます。



グラウンド・ゴルフ発祥の地でプレイを楽しんだ徳島県チーム。  
(前列右から2番目)



## バウンドテニス ウドンデス讃岐（監督兼選手）

おおにし さ なみ

大西 小波 さん 67歳 ●参加歴：2回目

## このチームだからこそ、分かち合えた感動と喜び

やったね 優勝だよ！

チーム6名で集まり、ハイタッチで喜びを分かち合いました。

バウンドテニスで、ねんりんピックに参加するのは個人戦ではなく、男子ダブルス、女子ダブルス、混合ダブルスの、男3名、女3名、計6名での団体戦になります。とっとり大会参加に向けて、男2名、女4名の普段から同じ体育館で練習をしている仲の良いメンバーで行こうということに決まりました。男性が1名少ない不利なメンバー構成でしたが、団体戦なのでチームワークの良さで決まりました。

大会初日の予選リーグの組み合わせには、どの大会でも上位に入っている強豪チームの名が同じリーグにあり、予選リーグでの厳しさを予感しました。

私たちは、「試合はやってみないと分からない、最後まで諦めずに自分のできる限りの力を

出して頑張ろう！」と声を掛け合い、試合を勝ち進め、なんとか予選リーグを1位で通過することができました。

2日目は順位別による決勝トーナメントです。

同じトーナメントは各予選を1位で通過してきた強豪チームばかりです。この日も私たちはお互いに声を掛け、励まし合い、仲間の応援も力にして、優勝決定戦までなんとか勝ち上がるすることができました。

優勝トーナメントの頂に立てたことは大変うれしく思いました。6人が一丸となって1試合ずつ戦った大会でした。仲間を応援する、そのパワーが実力以上のものを生み出したのだと思います。

この6人で参加して良かった。

「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」——大変思い出に残る大会となりました。



気心の知れた最高のメンバーによる最強のチーム。(右端)



## ボウリング よさこい高知（監督兼選手）

たけもと くみこ

竹本 紅美子 さん

66 歳

● 参加歴：2 回目

### 他県の選手との再会を楽しみに

ねんりんピックは5年前の和歌山大会に初めて参加し、楽しい思い出がありました。それ以降、ボウリング競技は開催されていませんでしたが、とっとり大会で再び開催されることとなり、運良く予選を通過して、初参加の西川さんとともに2回目の参加となりました。

事前に旗手を依頼されていたので、開会式は楽しみと緊張が半々でしたが、その日の鳥取市は大雨で行進などはなくなり、役割を果たすことはできませんでした。体育館で行われた開会式はテニスやボウリングなど限られた競技の選手しか参加できず、いろいろと準備してきた鳥取の方々にとっては残念な雨だったと思います。

初日の宿泊は弓道の方と同室で、自分の知らない弓道のことを教えてもらい、ボウリングの話もすることができました。2日目からの3泊は倉吉市のビジネスホテルで、宮崎県、福井県、京都市のボウリング競技の選手と一緒にしました。夕食と朝食をホテル近くのお店でずっと一緒に食べたので、いろいろな話をして仲良くなりました。試合中も声をかけて励ましあったり、昼食を一緒に食べたりしました。試合で同じボックスで投げた方々とも和やかに話ができ、10年以上前のこうち大会に参加した方もいて話が弾みました。ご高齢の方々はこの大会を楽しみに参加しており、ほかに県内の大会にも出ているそうです。ねんりんピックのボ

ウリング競技は開催県の状況によって開催できないこともあるので、「毎年あったらいいのにね」と話したことでした。

試合では個人戦3ゲームと2人チーム戦6ゲームを頑張ったのですが、入賞には届かず残念でした。でも、年齢が高くなっても楽しく競技ができるのは幸せなことだと実感しました。病気で投げることができなくなっていた方が仲間の励ましでボウリングを再開し、この大会に参加して元気に投げている姿にも感動しました。ストライクが出たときの笑顔は皆さん素敵だし、私のストライクが続いたときに、他県の方が我が事のように喜んでくれたのもとてもうれしかったです。皆さんとは再会を祈ってお別れしました。

試合会場が鳥取砂丘の近くだったので、シャトルバスの待ち時間を利用して鳥取砂丘に行ってきました。短い時間でしたが良い思い出ができました。

同行してくださった社会福祉協議会の皆さんには大変お世話になりました。細やかな心配りがとてもありがたかったです。今後もねんりんピックに多くの方が参加できることを願っています。



チームメイトの西川さんと笑顔のツーショット。(右)



鳥取砂丘の観光も良い思い出に。(左)



## eスポーツ 高知家チーム（選手）

ますなが みわ

益永 美和 さん

64 歳

● 参加歴：2 回目

## 親子2代でねんりんピックに出場

私がねんりんピックを知ったのは、亡き父が1993年の第6回京都大会にテニスで出場したときです。誇らしげで笑顔いっぱいのユニフォーム姿の父を今でもはっきりと覚えています。大会から帰って来てもユニフォームを大切に保管し、楽しい思い出を話していました。

それから30年の歳月が流れ、2023年のえひめ大会で、サイクリングで初出場が叶いました。総合開会式で各県のユニフォーム姿のアクティブシニアを目の当たりにし、言葉にできない高揚感を味わいました。競技地では開催地の手厚いおもてなしのなか、一期一会のサイクリストと風光明媚な約100キロのコースを走破。達成感に包まれました。

その後、2024年2月に高知県立ふくし交流プラザで開催されたeスポーツ体験会に参加。インベーダーゲーム世代の私たちですが、子育て中はコンピュータゲームは「悪」と決めつけ我が子には推奨せず、体験会場で初めて触れるゲーム機に悪戦苦闘。視覚と聴覚から得られる情報をもとにバチを振る「太鼓の達人」では、脳細胞が刺激されているのを実感。

その後、高知県eスポーツ協会から推薦を受け、今回eスポーツ競技の選手として出場することとなりました。大会までの8カ月間は、自宅で課題曲のYouTubeを観ながら新聞を丸めて作ったバチでテーブルを叩く、自宅練習の成果を確認しにゲームセンターで叩く、高知県eスポーツ協会にイベントへ誘っていただき遠征する、など工夫をして練習に励みました。

そして迎えた大会本番。開催地のスタッフ等の手厚いサポートやおもてなしを受けて笑顔と

熱気に包まれるなか、各県の選手が日頃の練習の成果を発揮。勝っても負けても笑顔があふれる会場で幸せな時間を過ごせました。また、会場には多くの報道機関が来ており、ワクワクドキドキしながら試合に臨みました。

同宿した千葉県、富山県、島根県の選手と鳥取県選手団とは、大会後に新たなコミュニティが生まれ、私たちが体感したeスポーツの素晴らしさをもっと多くの同世代に広めようと日々情報交換をしています。eスポーツは年齢や障害の有無に関わらず対等な関係で楽しむことができるツールとして期待されています。ゲームを通じて健康寿命を延ばし、楽しんで人生を終えることを目標に、ねんりんピックでつながった仲間と今後も活動していきます。

最後に天国の父に「ねんりんピックに出場し、いろいろな人と交流して元気に生きてるよ」と伝えたいです。



念願のねんりんピックに夫婦で出場！（左）



## ソフトバレーボール E-ファイター（監督兼選手）

さ さ き りゅういちろう  
佐々木 竜一郎さん 60歳 ● 参加歴：1回目

## 祝福の言葉は金メダルとともに一生の思い出

友人から誘われたのをきっかけにソフトバレーを始めて20数年、すでにピークは過ぎ、「健康のため」だけに週1～2回練習して汗を流していました。

今年で還暦を迎え、他チームにいた同級生に「今年からねんりんピックの予選に出られるけど試しに出てみない？」と声をかけたところ、「いいね！」と快諾してくれました。

それから知り合いをあたってメンバーを探し、何とか規定の人数が集まり広島市予選に参加できました。つまり、私たちは別々のチームでソフトバレーをしているいわゆる「寄せ集めチーム」です。普段はそれぞれのチームの練習があり、なかなか揃って練習できない状況で、コンビを合わせることも少ないまま広島市予選に出場しました。

ところが、僅差ではあったものの広島市予選で優勝してしまい、そこからが大変でした。「仕

事が休めない」などの理由で予選メンバーのうち2名がねんりんピック参加を辞退。補充メンバーを探して探して何とか6名が揃い、出場することができました。

ねんりんピック当日、初参加ということもかなり緊張しましたが、他県のチームに比べて平均年齢が若い（笑）我がチームは、予選1位グループ決勝を全勝で飾り、「ブロック優勝」という栄冠を勝ち取ることができました。これも予選を一緒に戦いながら行けなかった2人、急きよの補充要請を快く引き受けてくれた2人のおかげだと思っています。

初めてのねんりんピックでしたが素晴らしい大会でした。他県の方との交流、運営の方々との情報交換、そして、優勝というオマケまでいただき、広島に帰って皆からいただいた「おめでとう」「すごいね」の賛辞の言葉は、金メダルとともに一生の思い出になりました。

アテンドしていただいた広島市のご担当者の方、これだけの大きな大会を準備・運営して下さった多くの方々に心より感謝いたします。ありがとうございました！



表彰式後に優勝の喜びで沸くチームメイトと。(後列右端)



タイムアウトの円陣もみんな笑顔で。(手前右端)